

コロナ禍における看護学生の不安と感染予防 －看護学科学生へのアンケート調査から－

山下 知子¹⁾ 渡部 幸子¹⁾
了徳寺大学・健康科学部・看護学科¹⁾

要旨

2019年より持続する世界的な新型コロナウイルス感染により、看護学生の感染予防と健康管理のために看護学科において検温アプリ「Metell」を導入した。その成果や感染に対する学生の不安の内容を把握する目的で、各学年のクラスルームで「グーグルフォーム」を用いて調査を行った。回収率は、147名（34%）であった。各項目を単純集計した他、内容ごとに分類した。その結果、看護学生は対面授業、大学の設備における不安、メンタル面や体調の不調を感じていることを把握した。また、看護学生は看護教育で学習した感染予防策を活用し、感染を防御していることがわかった。

キーワード：新型コロナウイルス感染予防 看護学生 健康管理

Nursing students' anxiety and awareness of infection prevention in COVID-19 disasters -from a questionnaire survey of nursing students-

Tomoko Yamashita¹⁾ Sachiko Watanabe¹⁾
Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Ryotokuji University¹⁾

Due to the global outbreak of the new coronavirus that is persisting from 2019, the nursing department has introduced the temperature monitoring application 「Metell」 to prevent infection and manage the health of nursing students. In order to understand the results of the survey and the nature of the students' concerns about the infection, a survey was conducted in the classrooms of each grade using the "Google Form". The response was obtained from 147 students (34%). Each item was categorized according to the contents as well as totaling. The results showed that nursing students felt anxiety about in person classes, university facilities, and mental and physical health problems. It was also found that nursing students used the infection prevention measures they learned in their nursing education to protect themselves from infection.

Keywords: Prevention of new coronavirus infections, Nursing students, Health care

I. はじめに

2019年以来、新型コロナウイルス感染が拡大し、日本国中の病院や学校、地域コミュニティなどにおいて、変異株による感染拡大状況が報道され続けてきた。現在のところ、ワクチン接種については国民の50%以上が必要回数の接種を完了し¹⁾、感染対策は進んでいる状況であるが、外出自粛とともに日常生活におけるマスク着用は必須であり、新しい生活様式を身につけつつ生活を送っている。

先ごろの大学教育における感染予防に関する文部科学省の調査では、90%以上の大学が感染予防に対す

る注意喚起を行っている。各大学が取り組んでいることとしては、「PCR検査の受診、健康管理に対する大学への報告」(95%)、「手洗いなどの基本対策」(99%)、「5つの場面等の回避」(91.8%)、大声を出さない等の日常生活の感染リスクの低減(91.5%)などが紹介されていた²⁾。医療人育成を目的とした本学においても、ホームページ記載による注意喚起や、感染防止のポスター掲示、日々の健康チェック表記載等の取り組みを行っている。

さらに、体温や症状をより確実に把握するために、2020年度後期からは健康管理用アプリ「Metell」³⁾を導入し健康管理をはかってきた。このような体制を整えてはみたが、実際の個人個人の新型コロナウイルス予防に関する意識としてはどのようなものであろうか。個人個人が継続して感染予防を行っていかなければ、表面的なその場限りの取り組みに終わってしまう。看護学科では、1年次の基礎看護学でスタンダードプリコーションという一般的な感染予防対策を学び、2年次・3年次では病棟実習で感染予防の知識と実際を結び付けるという学習を行っている。しかし、今回のコロナ禍において看護学生が日常の中でどのような感染予防を行っているのかは不明である。

看護学生の日常生活と感染予防に対する意識については、先ごろ公表された日本看護学教育学会における調査がある。これは同学会が、全国の看護学生9000人余りを対象に、新型コロナウイルスとその影響を調査し、看護学生の生活への不安については、とても不安25.3%、やや不安61.3%を合計すると90%弱の学生が何らかの不安を抱えている⁴⁾。

しかしながら、不安の内容についての調査内容はなく、感染予防の意識も明らかにされていない。本研究の意義として、同様の調査は現時点では公表されていないため、貴重な成果になると考える。

Ⅱ. 研究目的

本研究の目的は、コロナ禍の生活における看護学生の不安と感染予防に関する意識を明らかにすることである。

Ⅲ. 研究方法

1. 研究対象：2020年度了徳寺大学看護学科に所属している全学生433名

2. 研究方法：アンケート調査(2021年2月から3月に実施)

各学年のクラスルームにグーグルフォームによるアンケートを提示しフォームの送信により同意を得たとした。

アンケートの内容は、学年・性別、対面授業への不安の有無(4件法)、不安の内容(重複回答可)、不安の度合い(1～10までのスケール)、不安に関する症状(厚生労働省：「こころもメンテしよう」若者のためのメンタルヘルスブック⁵⁾を参考に作成)(重複回答可)、検温アプリの導入について(4件法)、検温アプリに関する意見、感染予防のための実践(重複回答可)、自由意見の10項目とした。

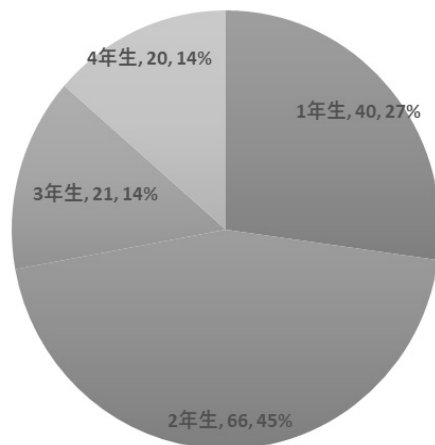
3. 分析方法：各学年のデータ回収には差が生じたため、項目ごとに記述統計を行った。

4. 倫理的配慮：アンケートの実施に当たり、各学年のクラスルームにオプトアウトのポスターを提示した。

内容は、アンケートの回答の有無は成績には関係がないこと、得られたデータは研究目的以外に使用しないこと、データは個人が特定されないように記号化すること、である。

また、未成年者に関しては、研究に参加することについて、保護者の承諾を得ることを明示した。了徳寺大学倫理審査委員会の承認を得て研究を実施した(20-36)

IV. 結果：単純集計の結果概要



1 年生：40 名
2 年生：62 名
3 年生：20 名
4 年生：20 名
計 147 名であった。

図1. 各学年の回答者

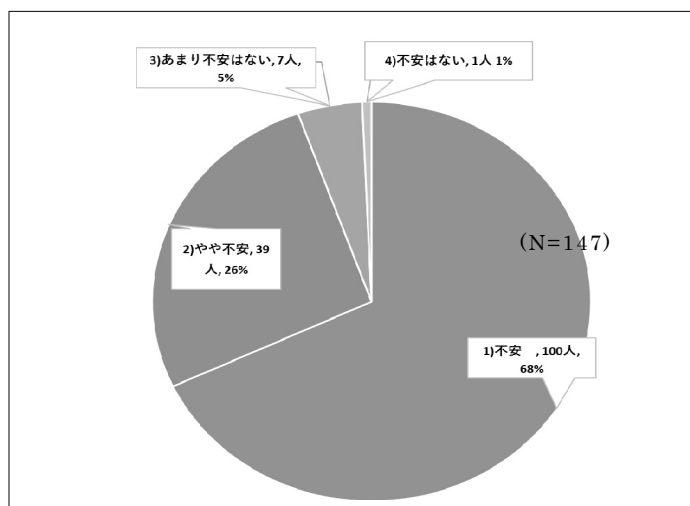
2. 性別：男性 6名 女性 141名

男性：1学年1名，2学年4名，3学年1名，4学年0名

女性：1学年39名，2学年62名，3学年20名，4学年20名

アンケート回収率は学年別に偏りが見られたため，全体をまとめて集計を行った。

3. 対面授業に対する不安について



1)不安から4)不安はない，までの4件法で回答を得た。

各結果を全体からみると，不安と回答した学生は100名で全体の68%，やや不安39名26%，あまり不安はない7名5%，不安はない1名1%であった。

(図2)

図2. 対面授業についての不安

4. 不安の場所や内容について質問した。(図3).

回答が多かった順に，通勤時間の混雑118名，濃厚接触者が不明98名，昼食時，密にならない場所が少ないが90 名，教室63名，授業時座席の近さ61名，教室の換気の状態59名，食堂51名，トイレ49名，友人と

の会話44名、実習室38名、更衣室27名、体育館8名、サークル活動7名、その他23名であった。
その他の内容としては、国家試験前に感染したくない、等の内容が見られた。

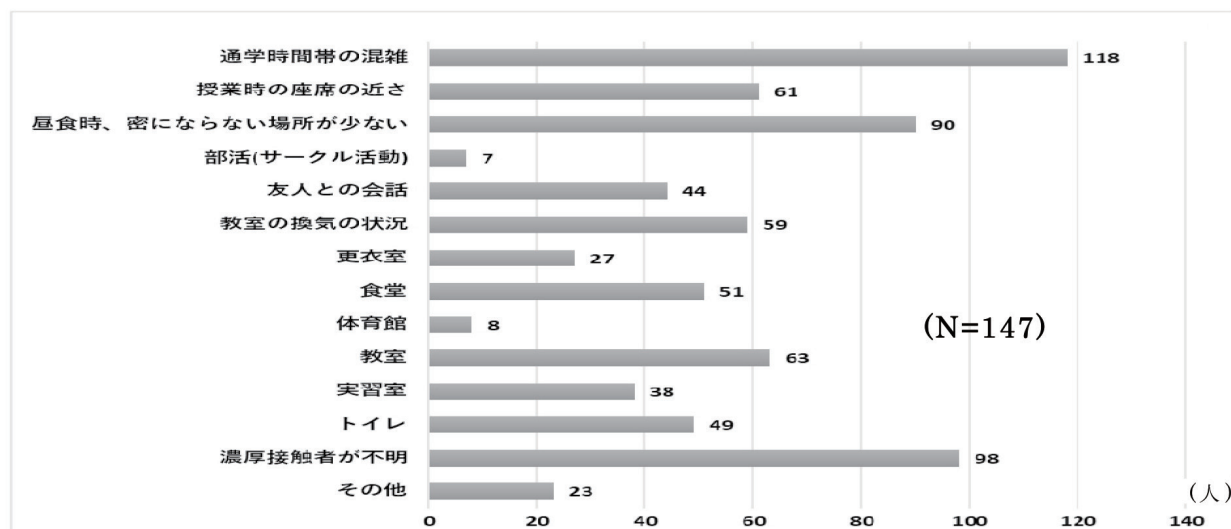


図3. 不安な場所と内容

5. 現在の不安のスケールでは、平常時（新型コロナウイルス感染が拡大する前）を0とした時の現在の値を1～10までのスケールで確認した。(図3)

現在の不安10と回答したのは54名、9は14名、8は27名、7は20名、6は4名、5は18名、4は2名、3は1名、2は1名、1は1名であった。

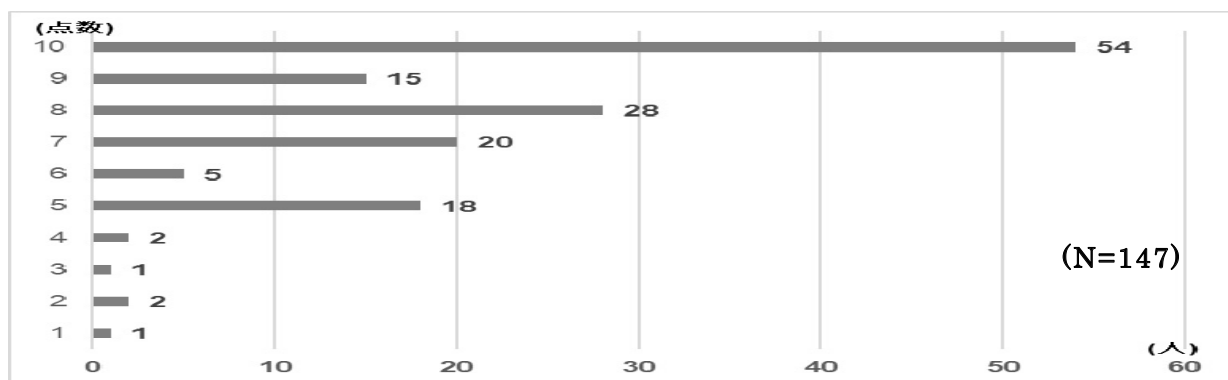


図4. 平常時を「0」としたときの不安のスケール

6. 自覚症状の内容について質問した(複数回答：図5)

回答が多かった順に、気分が落ち込んで、やる気なくなる90名、不安や緊張が高まってイライラしたり怒りっぽくなる57名、人づきあいが面倒になって避けるようになる55名、肩こりや頭痛、腹痛、腰痛などの痛みが出てくる46名、寝つきが悪くなったり夜中や朝方に目が覚める45名、食欲がなくなって食べられなくなったり逆に食べすぎてしまう37名、下痢したり便秘しやすくなる30名、めまいや耳鳴りがする21名、ちょっとしたことで驚いたり急に泣き出したりする17名という結果であった。

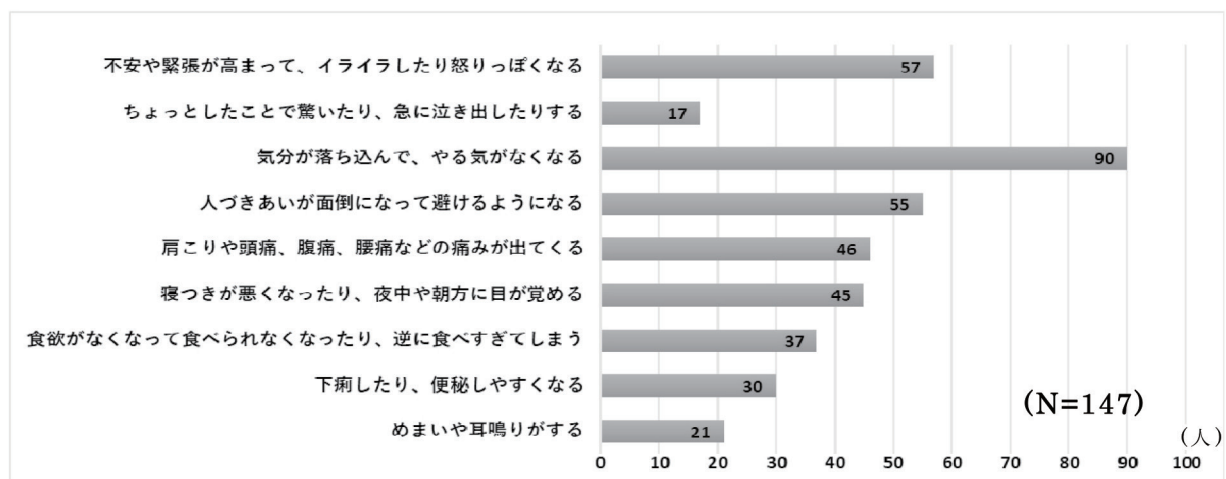


図5. 自覚症状(複数回答)

7. Metellの導入について1)役に立った～4)役に立たなかった、までの4件法で質問した。

- 1)「役に立った」は9名、2)「やや役に立った」67名、3)「あまり役に立たなかった」37名、
4)「役に立たなかった」34名であった。(図6)

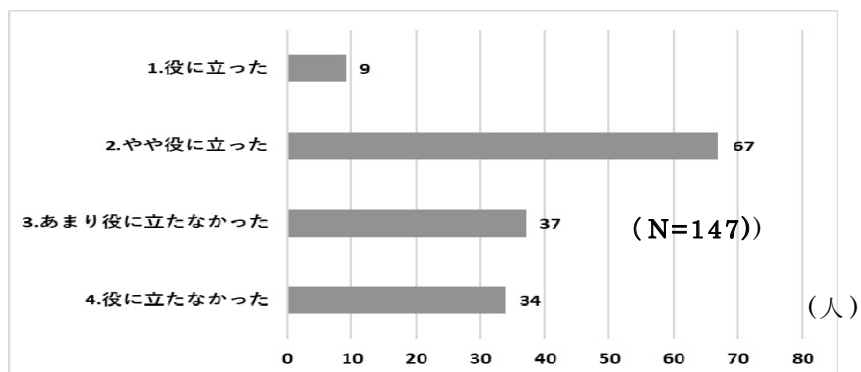


図6. Metellは役に立ちましたか？

8. 上記質問7.「Metellは役に立ちましたか？」の理由を自由記述で確認し、内容の類似性でグループ化した。(n=129)多くみられた順に、「使わなかった、インストールしなかった」46名、「体温変化がわかる」43名、「体温測定だけではコロナ感染かどうかわからない」34名、「もともと体温測定していた」6名であった。

9. 日常生活の中で感染予防のために重要だと思うことについて質問した。(複数回答: 図6)多い順に、「手洗い」142名、「マスクの着用」142名、「うがい」132名、「混んでいるところを避ける」119名、「外出を控える」103名、「自分専用の手指消毒薬を持ち歩く」93名、「外食をしない」78名、「体温を測定する」73名、「アルバイトをしない」37名、「Metellを使用する」22名、であった。

その他は8名で体力作りが2名、アルコール除菌5名、学生対象のPCR検査1名であった。

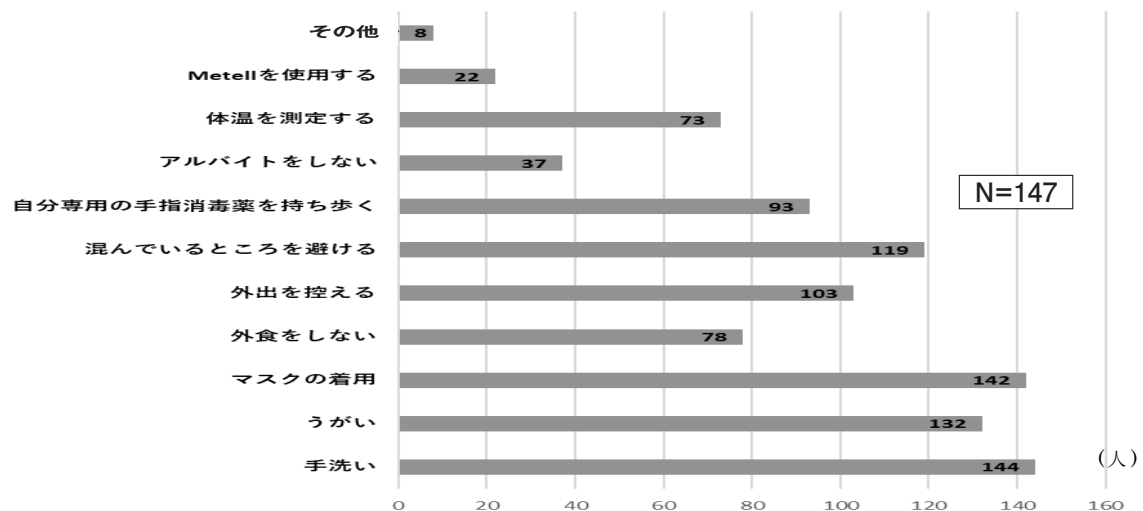


図7 感染予防対策(複数回答)

10. 新型コロナウイルスに感染しないように努力していることについて自由記述で回答を求めたところ102件の回答があった。自由記述を内容の類似性で分類した。全回答102件のうち、「家族以外と会わない、話すときは距離に気を付ける」など人との接触を避ける内容：(51件)、「栄養バランスの良い食事、睡眠をとり免疫を上げる」など身体管理に関する内容：(23件)、「帰宅後のシャワーや身につけていたものの消毒」など消毒に関する内容：(25件)、「ニュースのチェック」：(3件)であった。

V. 考察

以上の結果を、新型コロナウイルス感染に関する看護学生の不安、感染予防の2点から考察していきたい。

1. 新型コロナウイルス感染に関する看護学生の不安

他大学では、遠隔授業も多く行われている中、本学では2020年度前期は遠隔授業を行い、後期からは対面授業を行ってきた。本研究での対面授業に関しての調査結果では、「不安」と「やや不安」を合わせると90%以上の学生が不安であると回答していた。不安の内容として、通学の電車内や大学内の設備が主な内容であった。これは、久我ら⁶⁾の調査において、コロナ禍の10代の不安は91.9%何らかの不安があり、自分や家族、友人・知人の感染への不安が5割以上という結果と類似しており、感染への不安が高まっていることを示すものである。

一方、山根ら⁷⁾の大学生を対象とした調査では「遠隔授業で十分に学習ができるのか不安」であると8割近くが回答していた。また、梶谷ら⁸⁾は、オンライン授業への強い不満を訴える学生については海外文献などでも散見され、且つ電話相談などの実践の場面でも少なくないことを述べている。

このように、対面授業では感染に対する不安、遠隔授業では学習に対する不安があり、対面・遠隔どちらの授業形態にしても 新型コロナウイルスという未知の感染症が及ぼす影響があることは否めないことである。そのため、大学として、大学生活で感じる感染対策をしっかりとしながら、授業に関する学生の不安内容を把握したきめ細やかな対応を行っていく必要があると考える。

次に、看護学生のメンタル面を考察していきたい。新型コロナ感染拡大による精神的影響については、外出自粛や友人との交流が減少したことが考えられるが、「気分が落ち込んでやる気がなくなる」や「不安や緊張が高まってイライラしたり怒りっぽくなる」、「人づきあいが面倒になって避けるようになる」等

の自覚症状が高順位で見られた。久我ら⁹⁾は、大学生は人と会う機会の減少により、「コロナうつ」もみられ、家族と別居の場合にはさらにリスクが高まることを指摘している。また、橋本は、抑うつと「不規則生活」、「規律順守」は強く相関がみられていることを明らかにしている¹⁰⁾。このように、コロナ禍における3密も回避という環境を遵守しなければならないという生活は、看護学生の大学生活に大きな規制が作られており、抑うつ的な気分を引き起こしていると考ええる。

平常時には予測できない事柄であるが、メンタル面にも影響が大きいことを念頭に置き、大学生とかわっていくことが重要であることが示された。さらに、人と会わないという生活は、生活リズムの乱れやアルコール依存等につながるという指摘もされている¹¹⁾ことから、単に感染拡大状況だけではなく、学生生活への影響も含めて看護学生と接していくことが求められる。

2. 感染予防について

看護学科では、今回の新型コロナウイルス感染予防の意識づけも兼ねて、検温アプリ「Metell」を導入した。これは、スマートフォンにアプリをダウンロードし毎日検温後に入力するものである。導入にあたり各学年の授業後に教室で説明とダウンロードの指導を行ったが、役に立ったかどうかを問うと、「役に立った」と「やや役に立った」は半数をわずかに超えた程度であった。その理由としては、「体温測定だけではコロナ感染かどうか分からない」という学生なりの理由もある。「使わなかった、インストールしなかった」という学生も回答者の3割程度見られており、あまり効果的であったとはいえない。アプリの導入にあたっては学生が納得できる十分な説明が必要であったと考える。このような緊急事態の際に学生自身が自ら自己管理していくためには、自治会のような学生主体で運営する団体が中心となって学生自らの健康管理と感染予防対策を積極的に行えるような仕組みづくりが今後の課題であると考ええる。

かつて工藤らは、インフルエンザ感染予防に関して大学生が行っている予防策について調査を行った。その結果、手洗いは約70%、うがい約50%、マスク着用約30%、人混みを避ける約30%弱となっていることから、一般大学生の感染予防励行率は低いことがわかる¹²⁾。本学看護学科の場合、コロナ禍という非常事態において、日常的な感染予防として実践している内容については、「手洗い」と「マスクの着用」について回答者はほぼ全員が実践し、「うがい」や「混んでいるところを避ける」、「外出を控える」などの行動の自粛についても、次に多い順位となっている。これらについては、看護における基本的な感染予防の学習が役立っていると思われる。さらに、個人として努力していることとしては、人との接触を避けること、栄養バランスの良い食事、睡眠をとり免疫を上げることや、帰宅後のシャワーや身につけていたものの消毒など、看護教育で学習した内容の習慣づけもできてきていると思われる。看護学科においては、新型コロナウイルス感染者は少数見られたものの、これまでに学科内のクラスターは発生していない。これは、感染予防に関する学習の成果と言えるのではないだろうか。

今後、このような状況において、学生の不安は増強することを念頭におき、大学が感染対策を行うとともに、看護学生自身も感染予防対策を組織化していくことが課題であると考ええる。

VI. 結論

今回、看護学生を対象に調査を行った結果以下のことが明らかになった。

1. 本学の看護学生は、対面授業に関する不安、学内設備に関する不安を持っている学生が多かった。精神面にも影響が見られているため、学生が持っている様々な不安について理解し支援していく必要がある。

2. 本学看護学生は、看護基礎教育で学習した感染予防策を実践していることがわかった。

【学生に実施したアンケート】

1. 学年 1年生 2年生 3年生 4年生
2. 性別：男性 女性
3. 対面授業が始まっていますが、大学生活を送るうえで、不安を感じていますか？
1) 不安 2) やや不安 3) あまり不安はない 4) 不安はない
4. 不安の内容として、あてはまるものにチェックを入れてください。(複数回答可)
☐通学時間帯の混雑 ☐授業時の座席の近さ ☐昼食時、密にならない場所が少ない
☐部活(サークル活動)の開始 ☐友人との会話 ☐教室の換気の状態 ☐更衣室
☐食堂 ☐体育館 ☐教室 ☐実習室 ☐トイレ ☐濃厚接触者が不明
☐その他 ()
5. 現在の不安は、平常時(新型コロナウイルス感染が拡大する前)を0として、最大10とすると次のうちどれにあたりますか？
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
6. 下にある症状の中で当てはまるものにチェックしてください。
☐不安や緊張が高まって、イライラしたり怒りっぽくなる
☐気分が落ち込んで、やる気がなくなる
☐ちょっとしたことで驚いたり、急に泣き出したりする
☐人づきあいが面倒になって避けるようになる
☐肩こりや頭痛、腹痛、腰痛などの痛みが出てくる
☐寝つきが悪くなったり、夜中や朝方に目が覚める
☐食欲がなくなって食べられなくなったり、逆に食べすぎてしまう
☐下痢したり、便秘しやすくなる
☐めまいや耳鳴りがする
7. Metellの導入は、あなたの健康管理に役立ちましたか？
1) 役に立った 2) やや役に立った 3) あまり役に立たなかった 4) 役に立たなかった
8. 上記6の理由を記してください。
()
9. あなたが日常生活の中で感染予防のために重要だと思うことにチェックをしてください。(複数回答可)
☐手洗い ☐うがい ☐マスクの着用 ☐外食をしない ☐外出を控える
☐混んでいるところを避ける ☐自分専用の手指消毒薬を持ち歩く
☐アルバイトをしない ☐体温を測定する ☐Metellを使用する
☐その他 ()
10. あなたが新型コロナウイルスに感染しないように努力していることはなんですか？自由にお書きください。

Ⅶ. おわりに

今後も、しばらくはWithコロナの状況が続いていくのではないかと予測される。看護学生とともに、未曾有の新型コロナウイルス感染を最大限予防していきたいと考える。

Ⅷ. 謝辞

本調査に参加していただいた看護学生の皆さんに心から感謝いたします。

引用文献

- 1) Our World in Data, <https://ourworldindata.org/covid-vaccinations?country=JPN>, (2021, 9, 12 14:20アクセス)
- 2) 文部科学省ホームページ, 大学等における感染対策の対応状況について, https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_00007.html (2021, 9, 12 14:20アクセス)
- 3) 検温アプリmetell, <https://metell.jp/> (2021, 9, 26 12:24アクセス)
- 4) 一般社団法人 日本看護学教育学会調査 (2021)「新型コロナウイルス感染症拡大状況下で教育を受ける看護学生の声」概要.
- 5) 厚生労働省:「こころもメンテしよう」若者のためのメンタルヘルスブック, <https://www.mhlw.go.jp/kokoro/youth/docs/book.pdf>, (2020. 11. 11 15:00アクセス)
- 6) 山根真紀, 大宮ともこ, 石井智也, 住田健 (2021) 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 感染拡大における学生の健康及び生活に関する調査報告, 日本福祉大学スポーツ科学論集第4巻, 65-73.
- 7) 久我尚子, 井上智紀 (2020) コロナ禍の十代の不安, 「第1回新型コロナウイルス禍による暮らしの変化に関する調査～10代編」, ニッセイ基礎研究所, 1-6.
- 8) 梶谷康介, 土本幸子, 佐藤武 (2021) 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) パンデミックが大学生のメンタルヘルスに及ぼす影響, 文献および臨床経験からの考察 (2021) 43, 健康科学, 九州大学健康科学編集委員会, 1-13.
- 9) 久我尚子, 井上智紀 (2020) コロナ禍の十代の不安, 「第1回新型コロナウイルス禍による暮らしの変化に関する調査～10代編」, ニッセイ基礎研究所, 1-6.
- 10) 橋本剛 (2021) コロナ禍初期における大学生の心理社会的ストレスに関する探索的検討-社会規範としての援助要請スタイルの効果も含めて, 静岡大学人文社会学部人文論集, 15-34.
- 11) 梶谷康介, 土本幸子, 佐藤武 (2021) 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) パンデミックが大学生のメンタルヘルスに及ぼす影響, 文献および臨床経験からの考察 (2021) 43, 健康科学, 九州大学健康科学編集委員会, 1-13.
- 12) 工藤 欣邦, 河野 香奈江, 木戸 芳香, 兒玉 雅明, 藤田 長太郎 (2014) 大学生のインフルエンザ感染予防対策の励行状況と啓発活動の必要性, 日本プライマリ・ケア連合学会誌vol. 37, no.3. p281-284.

2021年12月6日 受理

了徳寺大学研究紀要 第16号

